

第5回 八幡市総合計画審議会 議事要旨

■日 時：平成30年1月31日（水） 10:30～11:15

■場 所：文化センター 4階 小ホール

■出席者

【委員】

家村 咲栄 委員、石川 純 委員、泉谷 透 委員、井上 好光 委員、岡山 敏哉 委員、尾形 良治 委員、奥村 正明 委員、加藤 博史 委員、川原 絵美 委員、河原崎 保 委員、木下 重喜 委員、小林 敦 委員、高田 稔幸 委員、豊田 勝代 委員、中川 一 委員、橋本 行史 委員、藤田 美代子 委員、古市 久子 委員、政 博之 委員、松下 順英 委員、松本 伍男 委員、溝口 知男 委員、八木 英夫 委員、吉田 元男 委員

【市役所】

丹下 均 副市長、以下部長級職員

【事務局】

足立 政策推進部長、曾我 政策推進部次長兼政策推進課長、岡田 政策推進課係長、堀川 政策推進課係長

■欠席者

岩成 功 委員（代理出席：八幡市人権教育推進協議会 事務局長 柳田 直良 氏）、岡本 圭司 委員（代理出席：京都府山城広域振興局企画総務部長 小谷 充茂 氏）、沖田 悟 委員（代理出席：京都府山城教育局 局次長 堀田 一夫 氏）、田中 恆清 委員（代理出席：一般社団法人八幡市観光協会専務理事 佐野 良夫 氏）、谷口 栄一 委員、田邊 昭 委員、辻村 修太郎 委員、東出 成記 委員（代理出席：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所 調査課長 森田 一彦 氏）

■次第

1. 開会
2. 協議・報告事項
(1) 第5次八幡市総合計画（答申案）について
3. その他

■配布資料

- <資料1> 第5次八幡市総合計画（中間案）パブリックコメントの要旨及び計画への反映について（案）
- <資料2> 第5次八幡市総合計画基本計画（中間案）からの変更内容
- <資料3> 市長と新成人との八幡市まちづくり座談会
- <資料4> 第5次八幡市総合計画の策定について（答申）

■傍聴者

なし

1. 開会

会長 : 今回が最後の審議会となる。これまでの審議会で審議いただいた内容を踏まえた上にさらにパブリックコメントを反映させた最終案を、本日、事務局でまとめてこられた。方針案についてご確認いただきたい。よろしくお願ひ申し上げます。

2. 協議・報告事項

会長 : 次第に基づき、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 : 前回の審議会後に一部修正を加えて中間案とし、12月22日から本年1月17日の間にパブリックコメントの募集を行った。その結果のご報告をさせていただきます。

また、昨年末、新成人の方に、今後のまちづくりについて市長と話し合っただけ座談会を開催した。こちらも結果についてご報告したい。

中間案から本日まで、庁内で精査して一部修正した部分もあり、そういった変更点もご報告しながら、答申案としてご説明する。

事務局 :

(資料1、資料2、資料3 説明)

会長 : 資料1から資料3まで、まとめてご説明いただいた。

資料1が、パブリックコメントの要旨と、総合計画への反映についての説明だった。この中で、直接総合計画へ反映されるのは、3番のゴシック体で書かれた部分である。その他の部分は、既に内容に含まれている、もしくは実施計画等で今後反映させていきたいということだったと思う。

資料2は、パブリックコメントを受けた総合計画の変更や、庁内で再度精査し表現等修正した内容についての説明だった。

資料3は、市長と新成人のまちづくり座談会を開催して、総合計画に関連して若い方がこれからのまちづくりについてどのように思っているかということをもとめた内容だった。これを総合計画と照らし合わせ、実施計画等に若い方の意見を反映させていくという説明だったと思う。

事務局の説明について、委員から質問をいただきたい。

委員 : 資料2の第4章第1節「主な取組と方向性」で、「徒然草をはじめ云々・・・」とある。本文にも「徒然草」という言葉は出てくるが、他にも松花堂昭乗とお亀の方など、八幡市と関係のある人がいたりする。八幡にこのような先達がいることに、これまでは気づかなかった。子どもたちに二宮忠八やエジソンについて、「創造的な活動をした有名な人たちがいるので、あなたたちも頑張れ」と

話してきたが、この方たちは八幡市の DNA ではない。それから見ると、松花堂昭乗やお亀の方は、八幡市の方で、お亀の方は石清水八幡宮にゆかりがある。行水をさせていた子どもを、たらいごと持ち上げて隠れた姿が家康の側室になるきっかけだったと聞く。資料は正法寺にたくさんあると思うし、「健幸のまち」にも広がる話である。また、松花堂昭乗は、当時の文化人と交流があり、人間関係を築くうえでのとても良いヒントになると思う。ぜひ「徒然草を」はじめ」と書いてある部分に、この2人を入れていただければと思う。

会長 : 他に意見はあるか。最後の機会なので、ぜひ一言頂きたい。

加藤副会長 : 気づいた点だが、1つは、資料2の第1章の追加部分で、「子どもや高齢者、障がい者などすべての人が地域と暮らし、生きがいを共に」の「地域と暮らし」という言葉はわかりにくいのではないか。言いたいことをうまく言い換えられれば良いと思うが、難しいのであれば、ここはカットしてもよいと思う。それから、第4章第2節、①「観幸のまち」のブランドのところ、「石清水八幡宮を中心に、本市のさらなる認知度向上に向け」とあるが、「本市の魅力の」と入れた方がわかりやすいのではないか。八幡市の魅力を発信していくということなので、その方が良いのではと思う。

先ほどの新成人の話や、古市委員の話とも関連するが、58 ページに「シビックプライドの醸成」とある。第1回会議で市としてのブランディングに力を入れたらどうかという話があり、ここでシビックプライドという表現になっている。ここでは文化芸術、お茶、歴史文化が載っており、「おもてなしの心」という言葉も上がっているが、新成人の「八幡のイメージを変えてほしい」という発言とも関連して、例えば八幡市は待機児童ゼロを達成している市である。それは29 ページにしっかり書かれているが、八幡には誇るべきそういう生活文化や、暮らしの実情がある。それも八幡のブランドだと思うし、プライドだと思うので、取り込んでもらえればと思う。本日は微調整の段階だが、大事なことかと思う。

委員 : たとえば目標年度の「平成39年」など、本文では西暦の後に括弧付けで平成と書かれているが、来年5月には元号が変わるということと、総合計画が向こう10年の計画を定めているものであることを考えると、そもそも存在しない年号になるため、行政は元号で記載するといったルールがあるのでなければ、西暦に統一してはどうか。

会長 : 貴重なご意見に感謝する。他にはいかがか。最後の機会なので、微調整の段階ではあるが、ぜひ入れておきたいことや、表現の問題があれば、お寄せいただきたい。

3名の委員からご意見をいただいた。それぞれの内容については、もう一度事務局でご検討いただくということで、内容については概ねご指摘のとおりであ

るかと思う。よろしくお願ひしたい。

それではいただいた意見については事務局と調整させていただくとして、本審議会の答申案の最終案としては固めたいと思うがいかがが。

(異議なし)

会長 : 感謝申し上げます。

それでは次に、答申の提出について、以後のスケジュールを含め、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 : 2月6日に会長・副会長から市長宛てに答申をいただき、その後議会等への報告をさせていただく。現在、市でも予算の議論を継続している。今日いただいたご意見を含め、最終案として固め、基本構想については議会へ議案として提案することになる。議決が得られたら、序論、基本計画と合わせて第5次八幡市総合計画として策定することになる。策定後は冊子として、審議会の検討経過や委員名簿、用語集を加え、巻末資料として掲載したい。その点、皆様に了解いただきたい。

会長 : 事務局からの説明について、ご意見、ご質問等あるか。意見がなければ了解いただいたという形で進めさせていただく。

審議事項はこれで終了するが、事務局から何かあるか。

事務局 : 重複するが、2月6日(火)11時に会長、副会長から市長へ答申いただく際、資料4の答申の鑑を付け、中身は後日写しを添えて皆様へ送付させていただく。皆様にはこれまで貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。

閉会にあたり、丹下副市長より一言、ご挨拶申し上げます。

丹下副市長 : 審議会の閉会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。委員の皆様には、今後10年間のまちづくりの基本構想である第5次八幡市総合計画について、全体会議5回、部会延べ6回と、大変熱心にご審議いただき、市を代表して厚く御礼申し上げます。市長への答申をいただいた後は、内容を十分に尊重し、本市として第5次八幡市総合計画案を取りまとめ、2月開催予定の市議会に基本構想を議案として提案する予定である。審議会での議論を通じて十分ご承知のことと思うが、人口減少、少子高齢化社会の到来等に伴う社会保障関係経費の増加や、老朽化する都市基盤の更新等が必要となるなど、市行財政をとりまく環境は一段と厳しくなることが見込まれる。このような状況を踏まえ、限りある資源の効果的かつ創造的な活用のため、第5次八幡市総合計画の将来都市像である、「みんなで創って好きになる 健やかで心豊かに暮らせるまち ~住んでよし、訪れてよし Smart Wellness City, Smart Welcoming City Yawata~」の実現に向け、まちづくりに取り組んでまいりたい。委員の皆様におかれては、それ

ぞれの立場から引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

事務局 : 最後に、会長からも一言お願いしたい。

会長 : 委員の皆様、1年間ありがとうございました。以前と異なり都市計画マスタープランや総合戦略といった新しい計画制度ができた中にあっても、総合計画はまちづくりの中心になるものと考えている。

八幡市は古くは門前町、江戸・明治期には門前町と大阪・京都への生産農地として栄え、昭和40年代には住宅都市として発展し、今の姿となった。人口減少時代を迎え、新しいまちをつくらねばならないときに、皆様方の貴重なご意見をいただきながら総合計画をつくり、八幡市が今後発展することを微力ながら願っている。お礼を申し上げますと共に、市の皆さん方も新しいまちづくりに取り組んでいただきたい。ありがとうございました。

以上

※発言者を示す「委員」には、代理出席者を含む。